

2010年10月7日

日鉄住金建材株式会社

## 日鉄住金建材のガードパイプ“Gp-N” 「2010年度グッドデザイン賞」を受賞 「プラスコンセプト」に高い評価を獲得 <人に優しい防護柵>

新日鉄グループの日鉄住金建材株式会社（社長 増田規一郎）では、このたび財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2010年度グッドデザイン賞」（Gマーク）を2009年10月から販売を開始したガードパイプ“Gp-N”で受賞致しました。

ガードパイプとは、複数のパイプにより構成された車両用防護柵で、車道の路側や歩道と車道の境界に設置されます。また近年防護柵の設置に関しては、景観への配慮や人との親和性が重視されています。

従来は「車」からの視点を中心に開発してきた車両用防護柵ですが、Gp-Nでは、車両衝突時の安全性など本来の機能に加えて、「歩行者」の安全を確保することにも主眼を置き、「人に優しい防護柵」をプラスコンセプトとして開発しています。

車両衝突に対する安全性と、歩行者の接触による怪我防止等への配慮、そして施工に携わる施工者には組立てやすさを追求しました。これらを同時に実現するものとして開発したのが、今までにない新しい発想の「ナットロケーター」です。「ナットロケーター」は、ボルトの片留め構造をスムーズにし、ボルト等の突起を抑制、閉断面内に耐衝突荷重上必要なボルト配置を実現する事ができる技術です。

今回グッドデザイン賞では、「従来の防護柵は歩道側が裏側という思想を見直した点や、車両の安全のみならず、歩行者の安全も確保するポイントを重視してデザインした姿勢」を高く評価されました。

「Gp-N」は、従来の商品と比べて以下の特長があります。

「親和性」 ビーム上端からボルトの突起を完全に無くし、歩行者に配慮したデザインになっています。併せて端部に反射部材を付ける事で、夜間の視認性を向上させています。

「景観性」 ビーム接合部を改良しビームの連続性を高めると同時に、支柱キャップ頭部の突起を小さくすることで、景観性を向上しています。

「安全性」 車両用防護柵としての安全性は、標準型ガードパイプと同等で、実車衝突試験にて「飛散防止性能」を確認しています。

「経済性」 各部材を見直すことで、景観性を向上させつつ「価格」は標準型ガードパイプと同一価格にて販売を可能にしています。

「G p - N」は、2009年10月の販売開始後より、堅調に販売数量を延ばしてきており、2010年6月には、国土交通省の新技术情報システム「NETIS（ネティス）」にも登録が完了（登録番号：CB-100014-A）し、工事物件への活用促進を推し進めています。

今後、市街地、自然・田園地域等のさまざまな地域に対して周辺景観との融和性を図ることが重要であり、「G p - N」の有する①人との親和性、②優れた景観性、③経済性等の特長を活かした提案活動による普及を通じて、「道路空間における生活向上」に貢献してまいります。

弊社では、今回の受賞を契機に「プラスコンセプト」を掲げ、商品価値の向上を目指してまいります。

お問合せ先；日鉄住金建材株式会社 防護柵商品営業室 松永

TEL 03-3630-2397

<広報窓口>

企画総務グループ 石井田

TEL 03-3630-4482

